

医薬分業指導者協議会

これからの薬剤師に 期待される役割

NPO法人ささえあい医療人権センターCOML
理事長 山口育子

ささえあい医療人権センターCOMLとは

- 1990年スタート、2002年NPO法人化
- 自立・成熟し主体的医療参加ができる賢い患者を目指す 一人ひとりが「いのちの主人公」「からだの責任者」の自覚から
- 対立せず協働 ⇒活動の目的
より良いコミュニケーション
- 思いを言語化し、提言・提案できる患者・市民の増加が願い

COMLの活動 (2016年1月末現在)



講演: 3525回
各種検討会・委員会

相談: 55683件



SP活動: 1387回 (OSCE375回)

病院探検隊: 80回



患者塾: 218回

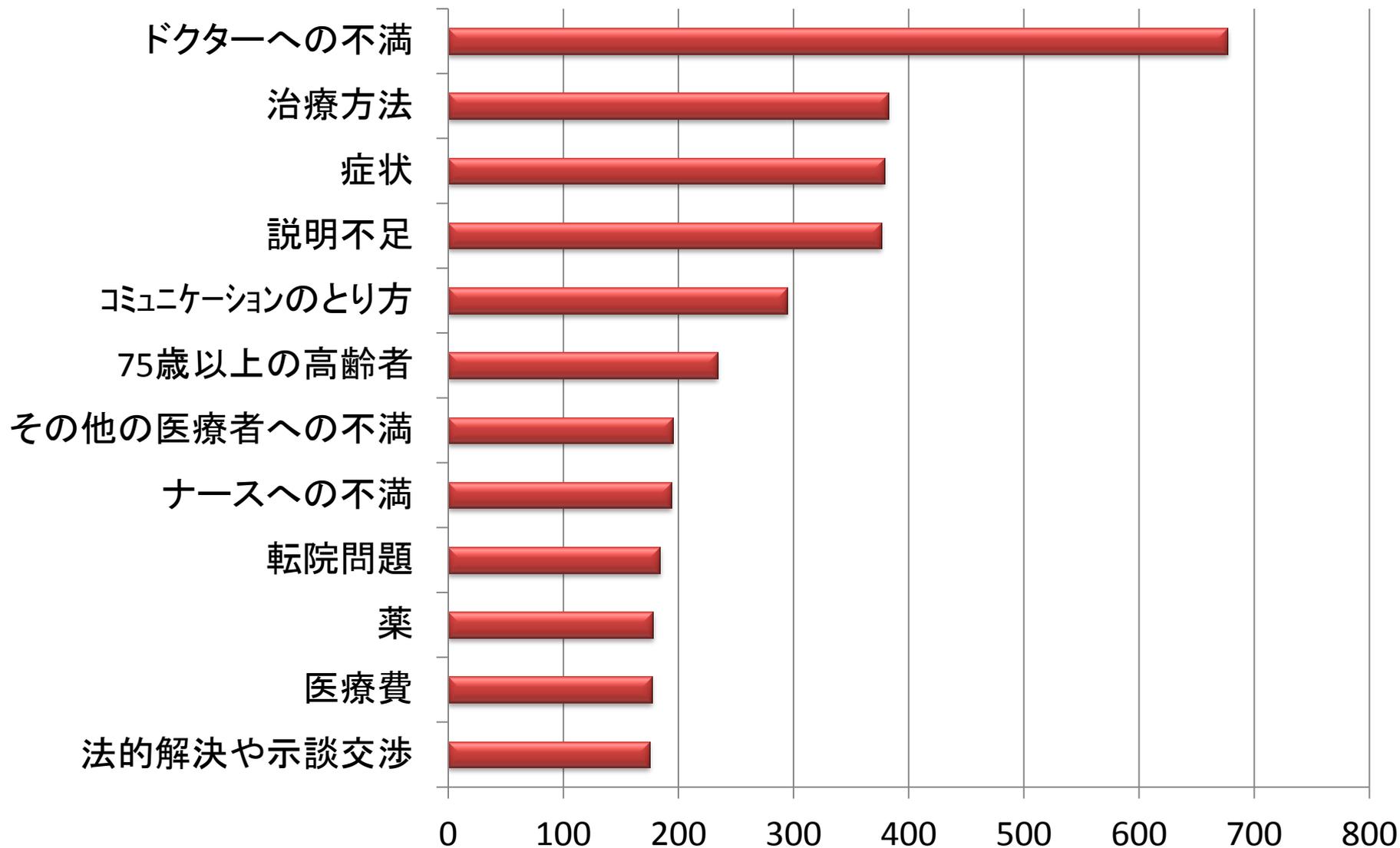


患者と医療者のコミュニケーション講座: 91回 (出前16回)

医療で活躍するボランティア養成講座 (2009年度～7期)



項目別相談件数(2013年度)



薬剤師に関する相談

- 患者への配慮よりドクターへの遠慮を優先
- ドクターや治療内容への批判をされた
- 調剤ミス(調剤もれ、過量投与、別の薬を調剤など)の際の対応が悪い
- 上から目線で見下した対応
- 的外れな説明
- 何が期待できるのか役割が見えない

求められる的確な対応

- 患者の知りたいことへの情報提供

“説明パッケージ”の一方向的な説明

患者の理解など、お構いなしに・・・

- 臨機応変な対応

対応や説明のマニュアル化

予期せぬ質問に口ごもる・・・固まる・・・

過剰な“サービス”

二分し始めた薬剤師像

- チーム医療の一員としての病院薬剤師
 - 5領域の専門薬剤師の出現
 - 緩和ケア、栄養サポートのチームの一員
 - 病棟薬剤業務の実施
 - 治験コーディネーター(CRC)
- 役割が見えない薬局薬剤師
 - 医師への遠慮
 - 不十分な情報提供

保険薬局に抱いている患者の気持ち

薬への関心は高いのだが・・・

- なぜ病気のことまで尋ねられるのか
- 説明を聞くより「早く薬を渡して!!」

なぜか

- どんな専門性を持っているのか
- 何を期待できるのか

つまり!

役割と存在意義が理解できていない

薬局薬剤師に求められるもの

- **役割の“見える化”**
薬剤服用歴管理
疑義照会(処方せん全体の3%)
- **かかりつけ薬局のアピール**
処方せんを1カ所に集める重要性の説明
せめてお薬手帳を1冊に
- **臨機応変なコミュニケーション能力**
チェーン店のマニュアル対応の改善
- **町の薬の相談相手として役割発揮**
セルフメディケーションのための相談機能、OTC提供(適切な情報も)
- **次代の薬剤師のための意識改革**
薬局実習2カ月半の義務化で見られている背中